

授業科目 物理療法学

【担当教員名】 佐藤 成登志		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		○		◎	
【概要・一般目標：G10】 物理療法の種類や原理を理解し、さらに治療への展開やリスクを理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 物理療法に使われる治療機器を説明できる。 2. 各種治療機器の特色を説明できる。 3. 治療機器のリスクおよび利用者のリスクを理解できる。 4. 物理療法各種機器を実施し、治療への展開を理解できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	温熱療法の基礎（全般）			1～4	講義
2	水治療法の基礎、ハバードタンク・部分浴・寒冷浴・交代浴			1～4	講義
3	超音波・超短波光線療法・マイクロウェーブ・光線療法・その他			1～4	講義
4	牽引療法の基礎および持続的他動運動訓練（CPM）			1～4	講義
5	電気治療の総合的説明			1～4	講義
6	電気治療（TES）低周波・中周波治療・FES・TENS・マイクローレント			1～4	講義
7	温泉療法・バイオフィールドバック療法・マッサージ・その他			1～4	講義
8	まとめ			1～4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		物理療法 第2版	千住秀明、沖田実	神陵文庫	2009・4,500円＋税
参考書		標準理学療法学 物理療法学 第3版	奈良勲、網本和	医学書院	2008・4,700円＋税
		EBM 物理療法 原著第3版	Michelle H. Cameron、渡部一 郎訳	医歯薬出版	2010・8,600円＋税
その他の資料					
【評価方法】 期末試験、出席状況などを通して総合的に評価する。			【履修上の留意点】		